

## 授業改善等に関する報告書（2023 年前期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グレートボックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	哲学のテキストを本格的に読むのは初めて、という人も、読むこと、そして話し合うこと、さらに論理的に書くことを、経験してきましたね。このようなことに、仕方なく行うタスク、のように向かうのではなく、知的な楽しさとして受け取れるようになることが、大学で学ぶことを自分のものにするのだと思います。これからの学びを一層楽しんでください。
グレートボックスセミナー 1	犬塚 潤一郎	後半にかけて、成長が顕著だったように思えます。哲学のテキストを本格的に読むのは初めて、という人も、読むこと、そして話し合うこと、さらに論理的に書くことを、経験してきましたね。このようなことに、仕方なく行うタスク、のように向かうのではなく、知的な楽しさとして受け取れるようになることが、大学で学ぶことを自分のものにするのだと思います。これからの学びを一層楽しんでください。
グレートボックスセミナー 2 a	犬塚 潤一郎	関心と習熟度にあわせて、テキストを変更しました。後半の読解力の向上は目覚ましかったと思います。
コミュニティ経済演習	上野 亮	本授業ではICTを活用した、地域コミュニティの課題解決とそれにまつわる経済活動の関係に焦点を当て、SNS（ソーシャルメディア）、オープンデータ、クラウドファンディングという、3つのテーマについて、それぞれ講義→調査→検討→報告のサイクルを回して、授業を進めてきました。  授業評価の結果については、理解度と満足度、どちらも一定の評価を得たと考えております（理解度：全体平均79.4%に対し81.1%。満足度：全体平均4.38に対し4.44）。今年度は昨年度より履修者数が少なかったこともあり、グループワークの内容について、比較的細かくサポートできたことも、昨年度より良い評価につながった要因と考えています。来年度についても、履修者数次第の部分もありますが、可能であれば、今年度のような形式で実施できればと思います。  ソーシャルメディアやクラウドファンディングの活用という、華やかな部分に目を向けられがちですが、本授業で扱ってきたように、実際には地域の抱える課題解決に活用されるケースも出てきています。今後は、ICTは工夫次第で身近な課題解決にも活用できるという点にも着目してもらえればと思います。
ゼミナール	倉持 一	今年度のゼミ活動は、かなり盛りだくさんで、グループワークを中心に、考えを出す、まとめる、表現するという能力を養うことができたと思います。グループワークは、ややもすれば傍観者になってしまうこともありましたが、その点に注意して、今後の学びをさらに広げてもらえればと思います。個人面談については、私としてももっと時間を取りたいと考えています。ゼミ生の皆さんと相談しながら、どのようなスタイルが適当か調整させていただきます。
ゼミナール	河井 延晃	本科目「ゼミナール」は、通年科目の前半の内容になります。ゼミでも何度かお伝えしている通り、通年科目であるため、引き続き継続して後期のプロジェクトや卒業研究計画などに結実しますが、その準備期間が前期（データベース演習、文献輪読、ディスカッションや意思決定技術などなど）でした。  授業評価について、アンケート項目Ⅲ（設問11-16）について、授業の満足度も4.89となっており、そのほかの項目も総じて平均値より高いものとなっています。ただし、14の皆さんの自己評価が全体平均3.80に対して3.67となっておりこれだけ低くなっています。  この点を中心に、後期の授業改善や補足をしたいとおもいます。まず、他の項目の高さに対してこの項目が平均並み、となった点に対して、本項目は自己評価であり自己肯定感とも関連すると考えます。これは、前期のゼミだけでは、企業連携のプレゼンテーションなどを経験していなかったため、自己肯定感や自己評価につながらなかったと考えます。  この点については、ある程度想定できたことで悩ましい部分がありますが、まさに後期に入って10月、11月はプロジェクト発表、12月は卒論計画や就活などに向けた指導（課題）が続きます。これを経ることで、本項目も含めて高めてゆけるとは思いますが、さらに教員自身が自覚的に進めてゆきたいと考えています。  ＝ ＝ ＝ 以上はアンケート項目からの改善点ですが、個人的には後期は学生間の関係性（チームワークやグループワーク）をうまくコーディネートして、就職支援なども積極的に行いたいと思います。必要に応じて個別面談の時間なども設けますので、遠慮なくコンタクトをください。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	学びの方法的姿勢が形成されつつあります。後半、より洗練されたものとなるように進めましょう。

【2023（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ゼミナール	須賀 由紀子	後期も、「あたらしい価値を作り出す」ことを念頭に、いろいろ取り組んでいきましょう。皆さん方世代が地域の中で活動することで、地域は活性化します。ぜひ、それを体感してほしいです。一人ひとりが「主体」となることが大事です。「暮らし」と「地域」を大切にしていけるような取り組みを、皆さんとしていきたいと思っています。よろしくお願いします。
ゼミナール	行実 洋一	非常に高い評価をもらったので、引き続き内容面で鋭意努力していきたい。
ビジネス特論 b（地域ビジネス）	倉持 一	コミュニティビジネスは、人口減少状態にある日本の中で、コミュニティにおける幸せ、歴史、文化、思い出などを維持していくために、ビジネスの力を借りてみてはどうかという、試的な活動でもあります。当事者意識をいきなり持つことはできませんが、コミュニティで生きる人々に思いを馳せることで、コミュニティビジネスの可能性を感じてもらえたのではないのでしょうか。
フィールドリサーチ a	上野 亮	資料の分かりやすさや満足度に関しては十分な評価を得たと認識しております。理解度や自身の成績評価については、全体平均よりも若干下回っていますが、これに関しては、今年度も今後の成長のため、授業中には良いところの評価だけでなく、問題点や修正すべき点等の指摘も行ってきたのが影響しているのかと考えています。ただし、成長を実感したことは図表を用いたプレゼンやデータ分析に関する回答も多く、本授業の目的を達成出来たと考えています。 今回の授業では、多くの受講者が一年生のため、授業を通じて、今後4年間通学することになる地域への理解を深めてもらう意味でも、日野キャンパスのある日野市やその近隣市をケーススタディとしました。本学のある地域であり、我々にとっても身近な地域になるので、地域の実情を理解出来たことには大きな意味があると思います。 また、本授業で学修してきた、定量的なデータに基づく分析、それを補足するための文献調査、調査内容に関する効果的な報告（プレゼンテーション）方法といったことは、様々な場面で必要な能力になります。本授業で学修してきた成果に関しては、ぜひ、他の授業を含め、今後の学生生活に活かしてください。
プロジェクト実践演習 a	須賀 由紀子 合原 勝之	消費者（生活者）目線から付加価値をどうつけるかを考えるという捉え方や、多様なものの見方など実践的に得ていただけた授業となり、とてもよかったです。教員側も、学生の皆さんの感性や、やりきる力に感心しました。若い人の力は素敵だだと思います。自信を持って、これからもいろいろな挑戦してください。
メディアコミュニケーション a	行実 洋一	後半が駆け足になって、やや授業スピードが速くなってしまった。その点は反省し、改善していきたい。
メディアプロデュース論演習	行実 洋一	この科目はおもに授業時間中の演習作業と、学外での集中的な作品制作にあてられるため、毎回の授業における授業外の課題作業にはどうしてもばらつきが出てしまう。その辺をもう少し工夫できるようにしたい。
メディア経営論	犬塚 潤一郎	メディア技術の歴史的展開からはじめて、今日の生成AI技術に関して、本質、リスク、活用方法など、多面的に検討してきました。新しい技術については、利用法や実際上の利益・リスクの観点からだけでなく、それがもたらす世界観や人間観への影響についての考察も重要です。特に従来“知性”としてとらえられてきたものがメカニズムとして外化するこの現実、深い考察を必要とするでしょう。継続して考えてゆきましょう。
メディア社会概論	行実 洋一	1年生の入門科目ということで、日々の課題は軽微にしましたが、もう少し厚くしてもいいとの結果となった。今後工夫していきたい。
ライフ・プランニング	犬塚 潤一郎	皆さんが生きてゆく社会は、その実相がいつそう複雑なものになってゆきます。授業では多面的にその姿を捉えることを試み、また得られた知識をもとに論理的に思考し表現することに取り組みました。毎週の課題は大変だったと思いますが、一人ひとりの成長がみられてきた過程に、確かな成長がみられました。大学生として学ぶこれからの後半を一層豊かなものに。
映像制作演習 b	犬塚 潤一郎	映像制作技術は、生成AIの登場・実用化により、大きく変化しています。従来のな、撮影・編集機材の使い方に習熟することは不可欠としても、そのような機材を不必要にする技術を無視することも現実的ではありません。一方、デジタル技術の発達とともに、身体的な感覚に直接するマテリアルの意味も深まっています。AI、デジタル、素材感、等々の技術を組み合わせながら、創作を楽しんでもらえたと思います。

【2023（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
応用メディア技術	河井 延晃	<p>本授業「応用メディア技術」は、「基礎メディア技術」に対して、制作系の実技や企画取材などを通じた制作課題を課した授業科目でした。</p> <p>アンケート項目Ⅲ（設問11-16）について、すべて平均評価が4を超えており総じて高い評価でした。ただし、Ⅱ（設問5-10）の「この授業の内容と方法について」で、4を切っている項目が2点あるため、この点について改善案を示します。（なお、細かな評価分布をみると、1名のみ最低評価を付けている方がおられるため、以下は平均値で見ないほうが良いケースかもしれません）</p> <p>4を下回った項目は、「6. 授業速度」と「9. 配布資料のわかりやすさ」についてです。                      授業速度が速いということ、配布資料をわかりやすくということはそれぞれ関連している項目とも言えますので、今後は速度をゆっくり進めながら配布資料（テキスト）の理解も深めてゆくことを心がけることで改善可能かと思えます。今年は、1限開講ということもあり、遅刻者がいたこともあり、比較的ゆっくり進めたつもりですが、もう少し進捗を遅くして、内容を欲張らないようにすることが重要であると考えます。</p> <p>さて、その一方で、大きく評価が分かれた原因（一人だけ1の表羽化が連続している）についても分析し、改善案をまとめてみたいと思います。朝1限ということで欠席が目立つ方がいました。実習と実技の比重がそれなりに高い「応用」科目である以上、連続で休むとついてゆくの難しくなります。また、テキストをそろえず授業を進めていった場合、授業についてゆくことも困難であると考えます。次年度での改善になりますが、「出席」と「課題」、「テキスト準備」なども授業に際してきちんと教員が確認し、場合によっては指導を行ってゆくことも改善案として必要性を感じます。この点、教員の反省点となりますが、欠席や毎週の課題提出に対してやや甘く、管理不足であったと反省しています。これらを総合的に対応してゆくことで、学生のコミットメントを高めて授業改善が可能になると考えます。</p>
家庭経営 a（食生活）	奈良 典子	アンケート有難うございます。今後の参考とさせていただきます
環境マーケティング論 a	犬塚 潤一郎	前半はマーケティング理論を、後半はソーシャルイノベーションの世界の事例と理論研究を行いました。毎回、学習ポイント課題に取り組みましたが、論理的な分析と論述の組み立て方について、習熟が進んでいます。環境問題への対処は、科学的な理解と経営的な判断・計画を必要とします。学習の進展を期待します。
環境マーケティング論 b	倉持 一	この授業は、伝統的なマーケティングの手法を実務に則りつつ学んだ上で、環境マーケティングという新しい領域を学ぶという2段階で構成しています。皆さんが普段目にしたり購入したりしている商品がいかにして計画的にマーケティングされた産物であるのかを、じっくりと解説したつもりです。そして、環境問題にマーケティングをどう組み込むのかということが、いかに困難な課題であるかを、皆さんに企業研究をして頂きプレゼンにまとめてもらいました。このプロセスによって理解が深まったと考えています。経営学を専門に学ぶ学部学科ではない皆さんにとって、初めて見聞する内容が多かったと思いますが、課題プレゼンの出来栄は素晴らしいです。
環境経済学	倉持 一	<p>授業に対する理解度や満足度などから、本授業の狙いは十分に達成できたものと考えています。経済学の合理性を切り口に環境問題を様々な角度から考察していくことで、履修者の理論的な考え方が養われたのではないかと思います。</p> <p>意見がありましたので、回答します。                      ①遅刻者の扱いですが、授業の方針として授業から排除することはしません。授業終了後に、大学の規定に基づき対処していますので、冒頭から参加している学生との間に不公平は生じませんので安心してください。                      ②授業のスピードですが、もう少し早めを希望される方ももう少しゆっくり目を希望される方の両方がいました。私の授業で使用しているスライドはすべてUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用し、文字の認識をしやすいように配慮していますが、個人差があるのは仕方ありません。皆さんの状況を見ながら調節していますが、これ以上早めてしまうと、不利な学生が増えてしまう気がします。</p>
環境思想 a	犬塚 潤一郎	風土学の理論について、テキストの基礎にある、様々な研究の集積を紹介してきました。学術テキストをよりよく理解するために、テキストそれ自体にとどまらず、その背景へと探求の眼を広げてゆく、その面白さを感じてもらえたと思います。
現代社会を読み解く a（政治と経済）	倉持 一	<p>この授業は、国内問題では公害を、国際問題では環境汚染を中心に、政治と経済の関与を取り上げました。                      公害は小学校でも学ぶテーマですが、深く学ぶ機会は多くありません。事実を知り、誰が悪いのかではなく、「なぜ生じ、再びこのような悲劇を繰り返さないためにはどうすべきか」を考えることを求めました。                      環境汚染も、私たち人間が目指す「豊かさ」を背景に生じていること、先進国と途上国の両方が加害者であり被害者であることを理解することを求めました。                      こうしたテーマは、重いものであり、時には憂鬱になったりもしたのではないかと思います。回答を見ますと、皆さんがテーマに対して真剣に考えたことがうかがえます。</p>

【2023（前期）現代生活学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代社会を読み解く b（生活と産業）	須賀 由紀子 倉持 一	授業理解度や満足度などから、本授業の狙いは達成されたものと考えています。私たちの生活と企業活動によって形成されている産業との関係がいかに関接であるかなどを、担当教員を変えることで複数の着眼点で学ぶことができたようです。1年生の履修者が多く、まだすぐには腑に落ちない場面もあったかと思いますが、今後のより専門的な授業の履修の土台にはなったのではないのでしょうか。
現代社会を読み解く d（科学技術と社会）	犬塚 潤一郎	現代の産業や生活が、科学技術の発達に深く関係していることは誰もが知っているところですが、その内容を理解し、社会のうえでの意味を考えてゆくことは、容易ではありません。資源環境・生命・知性の3つの技術領域における先端的なものや社会的な影響について、資料を参照しながら考察してきました。特に、生成AIについては、実際に活用しながらその特性を理解し、社会における意味を考察する機会となり得たと思います。技術の社会化の速度は一層増すことと予測されます。問題のとらえ方と姿勢を維持・成長させてください。
自立生活論 a（健康）	須賀 由紀子	これからのご自身の健康なライフスタイルに活かせるような形で様々な知見を学んでいただけてよかったです。ぜひ、この授業で学んだことを実際に活かしていただければと願っています。
自立生活論 b（消費者）	倉持 一	私たちは個人としての消費者という立場と、社会の一員としての消費者という立場とを同時に請け負う存在です。どちらに優劣があるわけではありませんが、日常、後者を意識することは多くありません。この授業の後半のテーマは、やや漠然とした「消費社会」を取り上げていましたので、ここが難しいと感じた学生がいたかもしれません。ただ、評価結果を見ると、概ね高い評価を得ているので、授業の狙いは達成されたものと思います。
女性社会論 a	須賀 由紀子 行実 洋一	授業統括の須賀先生のコメントを参照されたい。（行実） 授業振り返りアンケートの方に皆さん書き込みしていただいたように、女性のこれからの生き方についての見方、考え方をしっかり学んでいただけたと思うので、ぜひ、それをこれからのご自身の人生に活かしていただければと心から願っています。（須賀）
少子高齢化社会	須賀 由紀子	オンデマンドの授業でありましたが、しっかりと少子高齢化の現状と課題、そして、受け皿となる地域社会のあり方について学んでいただけたようで、ほっとしています。皆さん方若い方が、三世代をつなぐ要となることはとても重要です。ぜひ、これからも、「地域」に興味を持って、働きかけしていただけると嬉しいです。
生活産業創出論	須賀 由紀子	「生活産業」について、身近な企業の事例などから興味を持っていただき、理解を深めていただけたようでよかったです。教室の明るさのことも教えていただき、今後配慮していきたいと思っています。